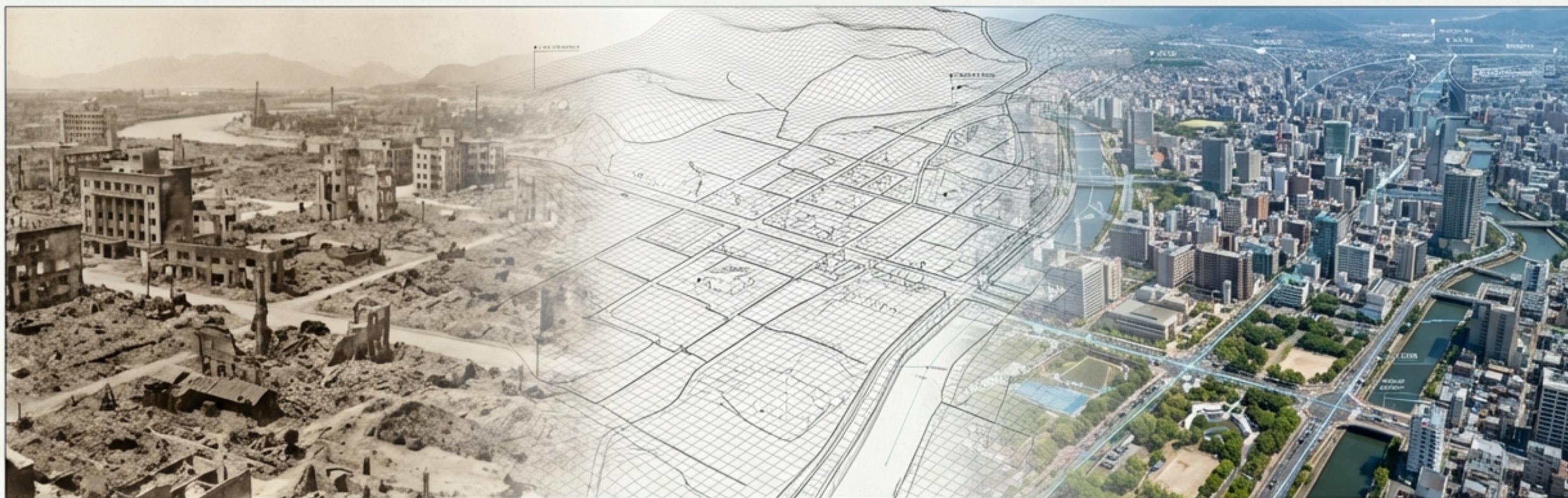


記憶のコミュニティと「リアルタイム・アーカイブ」

デジタルアースが紡ぐ過去・現在・未来



1945

Data Transition

Present/Future

デジタルアース： 時間を超えて繋がり合う場所

技術基盤：オープンソース「セジウム
(Cesium)」

現在の3D都市モデルの上に、1945年8月6日の写真や証言が完全に重畳されている。

これは単なる地図ではなく、現在と過去が交差する「記憶のポータル」である。



Archival Futurism



「先輩がここで亡くなった」という当事者性

現代の生徒たちがマップを見た瞬間、「80年前に自分たちの先輩が犠牲になった、まさにその場所で今自分たちは学んでいるのだ」という事実に向き合う。歴史的知識や土地鑑がなくても、自分自身の内側に1945年の広島を立体的に再構築できる。

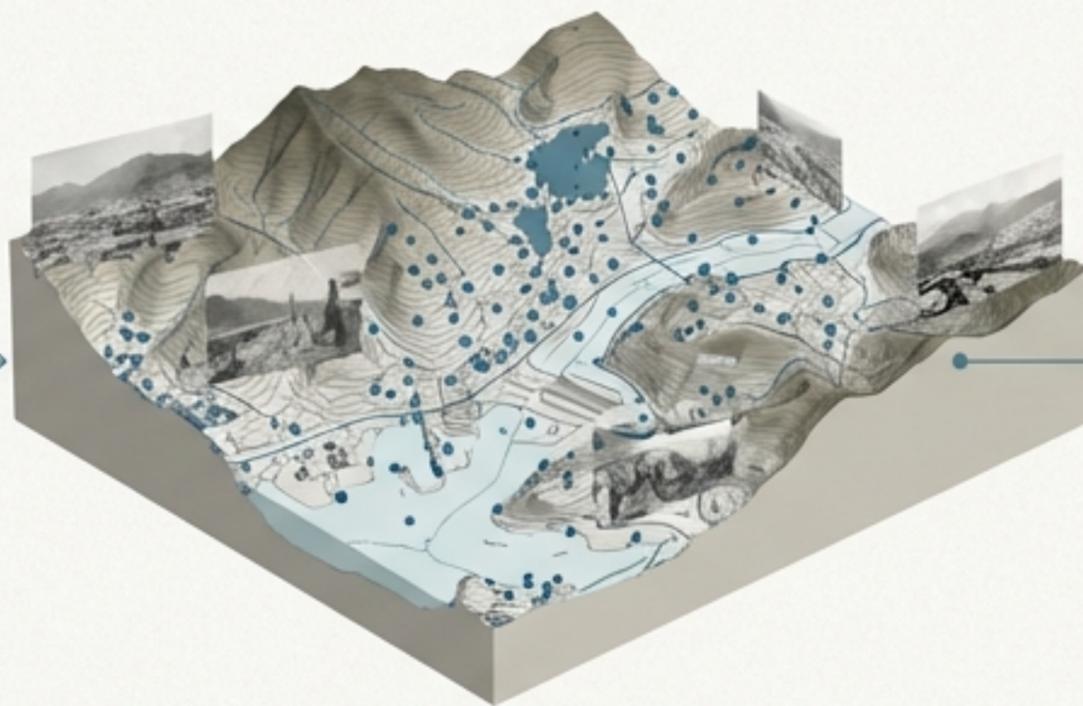
「多元的デジタルアーカイブ」の構造



公的な記録（マクロ）：米軍地図・航空写真



私的な記録（ミクロ）：被爆者の証言・写真



3D地形 + 多元情報

長崎の事例：平坦な広島と異なり、山が多い長崎では地形が被害を分けた。3Dモデルで地形と被害の間関係を可視化することで、文章以上に深く歴史的背景（コンテキスト）を理解できる。

アーカイブは技術者だけでは作れない

記憶のコミュニティ



- 広島：地元の高校生たちが14年間にわたり証言を収集



- 広島：地元の高校生たちが14年間にわたり証言を収集
- 岩手（3.11）：岩手日報社が5年をかけて遺族と信頼関係を構築

「未来に記憶を語り継ごうとする意志」と技術が組み合わさり、アーカイブに血が通う。

行動記録が突きつける「問い」



市民体育館（指定避難所）へ向かい、津波に飲み込まれた人々の軌跡。震災当日の30分間の可視化が、想像力を引き出し、未来の防災教育となる。

リアルタイム・デジタルアーカイブへの進化

2022年 ウクライナ侵攻

神の視点 (God's View)



米プラネットラボ社の衛星画像で広域把握

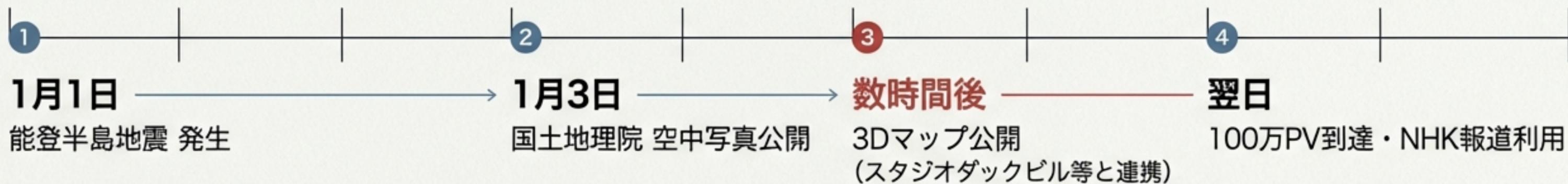
人の視点 (Human View)



現地クリエイターによるフォトグラメトリ

「現在進行形の戦争」を
即座に分析・共有

災害対応の最前線：アーカイブは「速報」になる



孤立集落や道路状況の可視化。NHK報道や支援活動で活用。

映像の余白を再利用する： 3Dガウシアンスプラットニング



余った映像からの
データ抽出

3Dガウシアンスプラットニング
による立体再現



ガザ（アルシファ病院）

ニュースで使われなかった
「余った映像」から病院
内部や中庭を立体再現

大分（佐賀関の火災）

ドローン映像を
「街のライフログ」として
復興過程を記録

100年後の未来へ語り継ぐために



1. 速報性 (Immediacy)

災害・紛争の数時間後の
状況共有。救命・支援へ
の活用。



2. 検証性 (Verifiability)

事後の多角的な検証。
失敗や教訓の抽出。



3. 継承性 (Inheritance)

100年先までデータを残し、
未来の世代が「自分事」と
して捉える。



「今」がそのまま「未来への遺産」になる

情報が限りなく透明になる時代。この「リアルタイム・デジタルアーカイブ」こそが、
これからの社会における記憶のあり方を再定義していく。

Thank You

References: 渡辺英徳 『戦災・災害のデジタルアーカイブ』